

便利ショートカット集 EQ/LEVEL ページ (EQ のショートカット)

1. 頻繁に使用するショートカット
2. フィルターボックスを使用してバイパスとデリートを行う方法

Lake Controller のメイン画面でもあります EQ/LEVEL ページですが、ショートカットを覚えておくだけで効率よくフィルターを調整することが出来ます。

今回は EQ のアサイン方法や周波数入力、EQ/LEVEL 画面でフィルターのバイパスや削除方法などをご紹介します。

「使いかたは何となく分かるが、もう少し効率的な EQ 操作方法を知っておきたい」といった方もご活用いただける資料となります。

1. 頻繁に使用するショートカット



図1 キーボードレイアウト

画像引用元: Wikipedia 106/109 キーボード

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%BC%E9%85%8D%E5%88%97>

- 数字「1」 : インサート ローシェルフ・フィルター
- 数字「2」 : インサート パラメトリック・フィルター
- 数字「3」 : インサート MESA・フィルター
- 数字「4」 : インサート ハイシェルフ・フィルター
- アルファベット「F」 : 周波数選択

アルファベット「G」 : ゲイン設定
アルファベット「B」 : バンドワイズ設定

多くの場合、マウスやタッチパネルでアサインしたいフィルターをドラックアンドドロップすることでフィルターのインサートを行いますが、任意の数字キー（1~4）でも各フィルター（EQ）をインサートすることが出来ます。

マウスやタッチパネルで慣れている場合には、マウスでの操作が早く感じられるかもしれませんが、環境に応じて、キーボード・ショートカットも組み合わせることで、よりスピーディーにコントロールすることが可能になります。

アルファベットの「F」「G」「B」はそれぞれ数値を入力する画面が表示されますので、任意の数値を入力することが出来ますので、予め変更したい周波数帯域が決まっているのであれば、マウスでドラックするよりも正確に設定することが出来ます。



図2 周波数を設定する画面

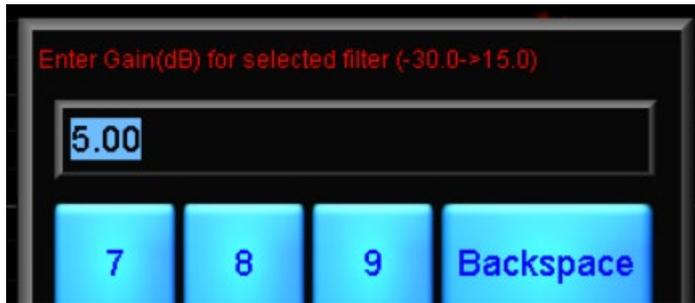


図3 ゲイン量を設定する画面



図4 バンド幅を設定する画面

MESA フィルターは非対称カーブを実現できるフィルターなので、周波数とバンド幅は2つのポイントを指定します。

MESA フィルターでアルファベットの「F」「B」を押すと左側のポジションが選択されます。左側を設定したい場合には「Ctrl」ボタンを押しながら、「F」または「B」を押すと右側のポジションが設定できます。

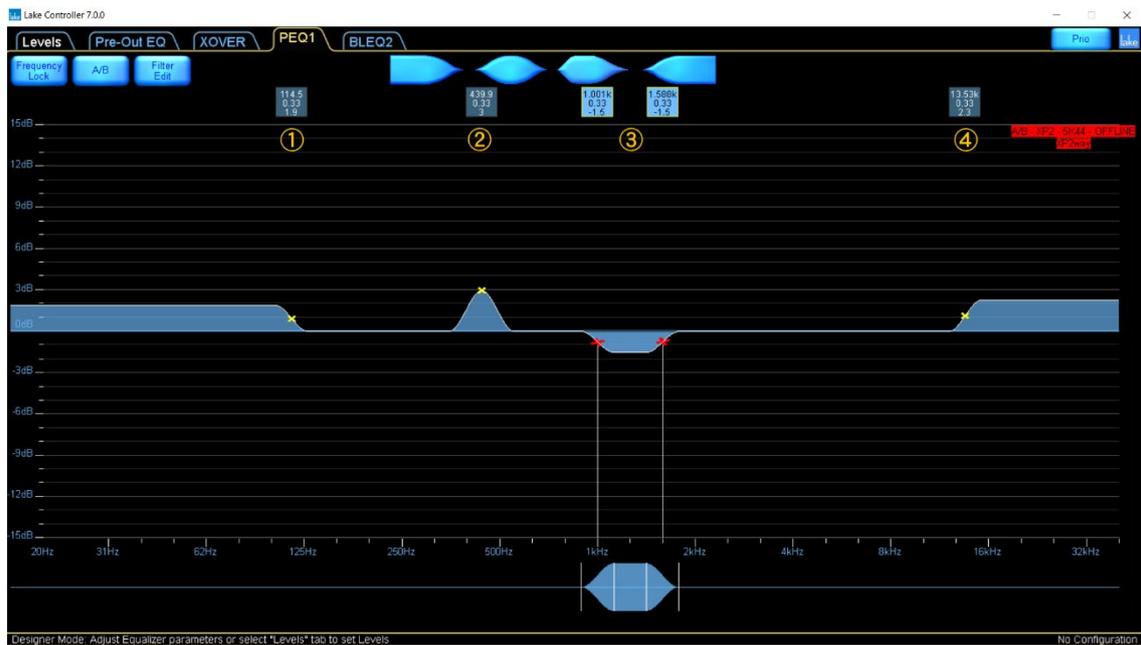


図5 各フィルターのボックス ①ローシェルフ フィルター ②パラメトリック フィルター ③メサ フィルター ④ハイシェルフ フィルター

2. フィルターボックスを使用してバイパスとデリートを行う方法

フィルターボックスをマウスで操作することによって個々のフィルターのバイパスやデリートを行うことができます

マウスなどでフィルターボックスを下側にドラッグすると、選択したフィルターをバイパスすることができます。元の位置に戻すと、バイパスが解除されます。上側にドラッグすると削除されます。



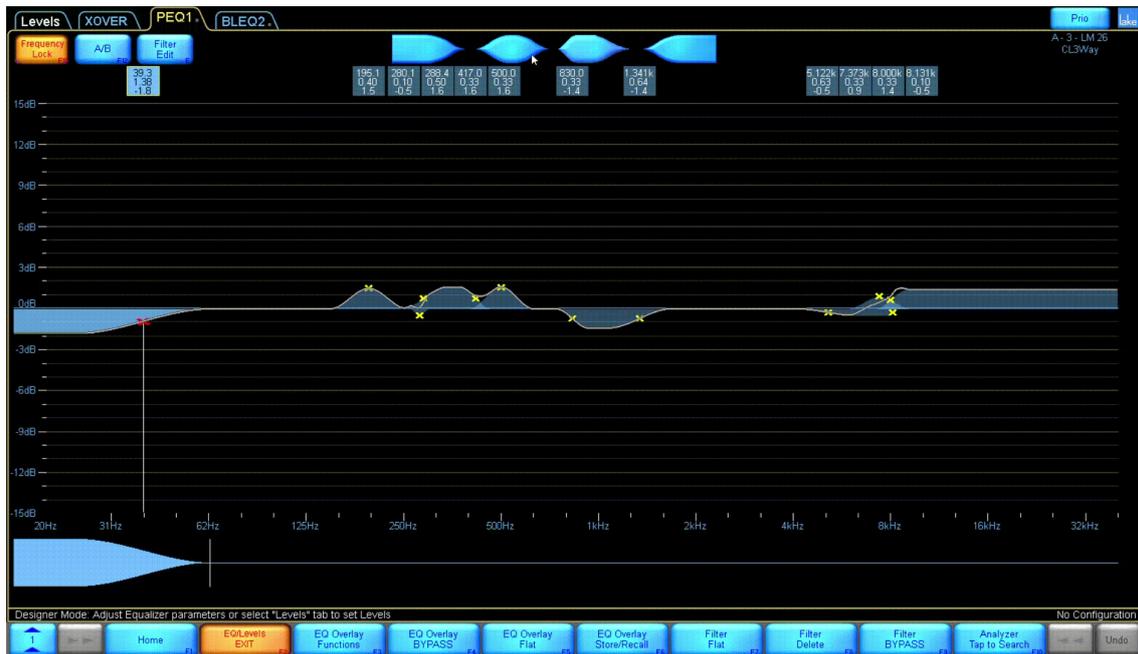
図6 選択されているフィルター



図7 バイパスされたフィルター



図8 フィルターを削除する場合、フィルターボックス内の文字が赤く表示されます。



3. Overlay EQ をバイパスする方法

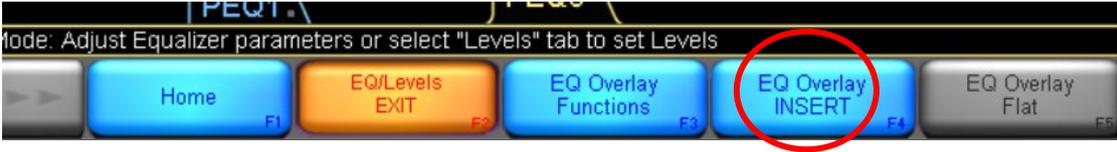
Overlay EQ とは Lake Controller の Module 毎に最大 8 つまで重ねて使用することができる複数のフィルターをまとめた EQ の「ページ」のようなものです。各 Overlay は PEQ（パラメトリック EQ）、GEQ（Ideal Graphical EQ）、BLEQ（BandLevel EQ）から選択して使用することができ、EQ Overlay BYPASS により、そのページをまとめてバイパスすることができます。

EQ タブをコントロールボタン側にドラッグすると Overlay EQ をバイパスすることができ、

****側にドラッグするとバイパスを解除することができます。

コントロールボタンでの操作は【EQ Overlay BYPASS】(F4)を選択することで Bypass され、同じ場所に表示される【EQ Overlay INSERT】(F4) を選択することでバイパスを解除することができます。

す。



☒ 9

